

## 平成24年度第2回徳島県動物由来感染症対策検討会概要

### 講義

「ダニ媒介性疾患をどう考えるか」馬原医院 馬原 文彦 医院長（当検討会委員長）

- ・ダニ媒介性疾患の考え方
- ・ダニ媒介性疾患の治療
- ・マダニに刺咬されたときの対処法

### 議題

(1) 平成24年度第1回検討概要について

(2) 各動物由来感染症対策について

①「重症熱性血小板減少症（SFTS）」について

これまでの流れと今後の対応

②「狂犬病予防危機管理研修」の報告

- ・狂犬病発生時に検体となる犬の脳の取り出しの実習を動物愛護管理センターで実施、その検体を用いて保健製薬環境センターで直接蛍光抗体法の実習を実施。
- ・ガイドラインでは、狂犬病診断のウィルス検査は必要に応じて感染研の協力を得ながら各自治体で実施することが望ましいとされている。また、自治体での狂犬病臨床診断及びウィルス検査技術の習得は狂犬病発生初期の迅速な対応のため必要不可欠であり、また多くの職員が体験することにより万が一の事態に備える。
- ・解剖の排水については、狂犬病ウィルスは不活化しやすいのでそのまま排水が可能。排水施設のある動物愛護管理センター収容棟で実施するのは都合がいい。
- ・今後、検体の輸送等可能な限りマニュアル化すること、臨床診断について改訂を考えていくこと、四国4県と連携した実習の実施を検討する。

狂犬病について

- ・ねずみ、野生動物、猫、家畜が狂犬病対策の中心ではなく、日本国内で次に流行が本当に起こる場合、どの動物で流行する可能性が高いのかを見極めて対策を実施する。流行を維持できるウィルスはその種に順化している。よって、日本では犬に対する対策を徹底する。
- ・暴露前ワクチンの不足について、医療現場の声を国に上げていき、マニュアルに現状を追記することについて、今後検討していく。

③「鳥インフルエンザモニタリング」については全て陰性

④「死亡野鳥 鳥インフルエンザ検査状況」については全て陰性

(3) 動物由来感染症関係ホームページ案について

- ・「動物由来感染症とは」…厚生労働省の動物由来感染症ハンドブックにリンク
- ・「動物由来感染症対策検討会について」…当検討会の説明と議事録の掲載
- ・「動物由来感染症関係マニュアルについて」…マニュアルを掲載
- ・「動物由来感染症の検査状況」…これまでの検査状況を掲載
- ・「動物由来感染症に関するお知らせ」…注意喚起等

(4) 平成25年度事業計画案について

- ・検討会等の大まかな流れは今年度と同様の流れ
- ・狂犬病ガイドライン2013を受けての狂犬病対応マニュアルの検討をさらに進める
- ・猫における日本紅斑熱群他リケッチアモニタリング等、新たなサーベイランスの実施
- ・ホームページの充実